

第2回出雲採択地区教科用図書採択協議会会議録

期 日 平成27年7月22日(水) 10:00～17:15

場 所 出雲市役所 501号室

出席者 各市町教育委員会教育長4名、保護者等代表4名

事務局：出雲市教育委員会学校教育課 課長、主査、主事(教科書担当)

(1) 会長あいさつ

(2) 協議

課長 早速協議に入ります。以後の進行は会長にお願いします。

会長 協議事項①の第1回採択協議会の会議録の確認についてです。会議録はいかがでしょう。よろしいですね。それでは会議録は承認されました。続きまして協議事項②研究結果の報告に入ります。事務局から報告の流れについて、説明願います。

主査 選定に必要な資料等をお持ちでしょうか。

委員 資料を見ると、結局どの教科書が一番良いのかが不明確なものもあるような感じを受けます。

委員 教科によっては、判断できないような書きぶりのものもありました。

委員 調査員が「出雲地区としてはこの教科書が良い」ということを示し、確認していかないといけないと思います。

委員 でも逆に、何社の中から二社くらいが甲乙つけがたい、ということであのような表現になったのかなと思います。

委員 管内の子どもたちの学力の状況からみるとこれがいいということで判断してほしいです。

会長 前回の小学校の時は、全部の教科・種目の説明を受けてから、協議・決定していましたが、教科・科目も多いので、できれば、教科・種目単位で決めることができればと思っていますが、この進め方でよろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 それではそのように進めていきます。事務局から結果報告について説明をお願いします。

主査 特別支援教育に係る図書について説明します。他の教科と異なり、学校で使う一般図書を従来からある図書リストに追加してよいかということになりますので予めご了承ください。代表調査員からの報告を受けた後、採択協議会として採択する図書の選定をしていただきま

すのでよろしく申し上げます。

[国語・書写]

会長 それでは国語から始めたいと思います。早速報告をお願いします。

代表調査員 採択の視点を踏まえ、国語では、何点か気を付けて見る視点を設けました。まず、読み物資料が精選されているかということ。次に興味関心を持てるような内容・配列になっているかということ。次に情報活用能力を含めた活用する力の育成がどうかということ。次に系統性がどのように意識されて作られているかということ。それから読書活動につなげる工夫がされているかということです。

まず、A社の教科書です。読み物資料は精選されており、素晴らしい教材がそろっていました。非連続型テキストの読み方・使い方ですが、資料を読み取ったりプレゼンをしたりすることを意識的に考えられていました。また、一年間の学習の流れがわかり、見通しを持って学習することができます。総括としては、三年間で学ぶことが一目でわかるように示されています。また、感性を磨くのによい資料がたくさん掲載されています。

続いて、E社です。特徴は2年で戯曲作品を取り上げている点です。またメッセージ性の強い詩の一節を取り上げ、学習意欲を高めることができるようになっています。読書案内では、作品を羅列するのではなく、興味あるものを探ることができるようになっています。詩の学習では比較読みができるように工夫してあります。総括としては、3つの観点で学習を振り返り自己評価ができることがE社の特徴です。

続いてF社です。近代の作家について、読み広げられるように工夫されています。「話す・聞く」の学習でグループ学習ができるように工夫されています。即興劇など表現を工夫できるようになっています。また、読書活動・情報活用のヒントなどが具体的に紹介されています。総括としては、自主的な学びにつながる工夫が施されていることがF社の特徴です。

続いてG社です。自主学习など家庭学習の充実が図られるよう工夫されています。また、各学年とも巻末に折り目ページを設けて、古典作品に興味を持つことができるよう工夫されていることが特徴的です。また、学習後の読書活動につながるような工夫も見られます。総括として、「四季のたより」に感性を育むような配慮がなされていました。

続いて、J社です。発達の段階に応じた配列となっています。また、委員会活動など具体的に生かせる場面を取り上げ、意欲を高める工夫をしています。また、情報を集める工夫など、情報活用能力を育てる工夫もなされています。総括として、季節に関する言語感覚が養われるよう工夫されています。

資料編が充実していて論理的に物事を考えるのに有効である点、文法等がクイズやゲーム理解できるようになっていて、興味を持って取り組める点、そして、3年間の系統性が明確になっており、他教科との連携を図りやすいA社が一番良い教科書であると考えます。

会長 それでは、委員の皆様から何かご質問があればお願いします。

委員 A社が特に優れているということでしたが、話す・聞く・書くについて、A社が評価された点はどのようなことがあるでしょうか。

代表調査員 A社については、具体例が多く示されているので、イメージしやすいように配慮して作られているのではないかと思います。

委員 私はJ社も良いのではないかと思いますでしたが、A社とJ社を比べた場合、決定的な違いは

为什么呢。

代表調査員 資料編がA社のほうが充実しているのではないかと、本編で学習した内容を深めていくうえでA社が良いのではないかと思います。また、見通しを持って学習できるという点でもA社が良いと思います。

委員 5つの観点を大切にされましたが、なぜこの5つを選んだのか、その背景を教えてください。

代表調査員 読書活動につなげる工夫という観点、教師も生徒も見通しと振り返りができる観点、情報を活用する力を身に付けることができるという観点、読み物教材が精選されているという観点、感性を培うことができる観点が国語では大切であるということで挙げてみました。

委員 子どもたちにとってどうであるかということ、教える側としてどうなのか、という視点もあると思いますが、教える側としては、A社とJ社では使いやすいというものがあるのでしょうか。

代表調査員 他の調査員もA社と言っていました。使いやすいという点からもJ社よりA社が良いと思います。

委員 出雲管内の子どもたちの学力調査結果から、書く力が弱いということが言われていますが、そういう力をつけるための教科書の選定としては、A社がよろしいですか。

代表調査員 どの教科書でもその観点については力を入れられていますが、A社は書くことについてはステップを踏んだ構成になっているので、指導しにくいということはないと思います。

委員 前回はA社となっていますが、教える立場としては、同じ会社のほうが教えやすいというのはありますか。

代表調査員 前回はA社だったから、という考えはないものとして調査研究を行いました。教材は変わっていきますので、そのような視点はないものとして考えました。工夫されている点を見ながら行いました。

会長 それでは続いて、書写の報告をお願いします。

代表調査員 書写も、技能の習得がきちんとできるかということ、興味関心を持てるものであるかということ、必要感がある学習になるものであるかということ、他教科との関連がもてるかということを中心に見ていきました。

まずA社ですが、文字の学習、配列の学習、生活場面における学習の順に単元が構成されています。行書も段階的に身に付けられる工夫がされています。また、この教科書だけは、AB版と幅が広がっていて、大きな写真・イラストを豊富に取り入れています。また、大きい手本であるので、生徒も書きやすいと思います。また、芸術書道との関連も配慮されています。総括としては、1・2年生で基礎的な知識・理解に重点を置いて、3年生でそれを活かして目的に応じて文字を書くことができるよう工夫がなされています。

続いてE社です。1・2年生で毛筆の後に硬筆教材を配置して、毛筆と硬筆の関連を理解で

きるようになっていきます。また、書体の歴史などを取り上げ、興味・関心の幅を広げています。また、生活に役立てるような教材が取り入れられており、社会生活の場で書く力をつけるための工夫がなされています。ただ、毛筆作品の線が細めでした。また、行書の練習時数が少ないのも特徴です。

続いてF社です。特徴的だったのは、話し合い・考察を経てから主教材に入っていくという構成です。また、制限時間内に書いて行書学習の意義をつかむ工夫がなされています。また、予習・復習に自主的に取り組める工夫もなされています。このように、主体的に学ぶことができるように工夫されているところが、F社の特徴だと思います。

続いてG社です。ここも日常の書く活動につなげる工夫がされています。身近な場面で学習したことを活かすことができるように工夫されています。また、文字文化と芸術に関する意識を高めていく工夫もなされています。全体的には毛筆による基礎・基本の充実が図られているということを感じました。

続いてJ社です。見通しを持って学習できるように配列されています。また、キャリア教育の視点が重視されている教科書となっています。また、芸術書道への興味関心が高まるような工夫がなされています。また、3年間のまとめでは、テスト形式で既習事項が確認できるようになっています。全体としては、資料を多くし、基礎・基本の学習と関連付けたり教科等の活用に生かしたりすることができるように工夫されています。

手本として見たとき、大判で字が見やすく手本になりやすいということ、島根県の高校入試問題に対応したページがあること、資料編が充実していて生徒が主体的に活用していくことができるということから、A社が特に優れている教科書ではないかと考えます。

会長 それでは、委員の皆様から何かご質問があればお願いします。

委員 最後のところで、島根県の入試問題に配慮されている、ということがありましたが、どういふことか具体的に教えてもらえませんか。

代表調査員 県立高校の入試問題に毎年、書き順の問題が出題されています。その書き順に意識を持たせるような学習が入っているということです。

委員 すべての教科において探究的な学習が求められていますが、それが評価されているのがF社ですが、主体的に学習して家庭学習に結び付けられることが、A社でも見られるのでしょうか。

代表調査員 家庭学習については、A社でも見られます。授業だけでなく自分でやってみるといふ点では、A社が使いやすいと思います。

委員 大判になったのは今回からですか。

代表調査員 わかりません。

会長 以上で、国語と書写の報告は終わらせていただきます。ありがとうございました。

(代表調査員退席)

会長 次は社会ですが、国語と書写の選定を行ってもよろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 まずは国語ですが、A社のほうが良いという報告があり、いろいろなご意見をいただきましたが、委員の皆様のお考えはいかがでしょうか。

委員 A社で良いと思います。特に非連続型のテキストという形が、思考力を高める点で良いと思います。

委員 私もA社が完成度が高いと思います。ここに挙がっている観点ではありませんが、子どもたちにとってとっつきやすい、見やすいという点ではJ社がリードしていると思います。G社はフォントが太くて、読みやすい感じがしました。

委員 納得のいく説明を受けたので、A社で良いと思います。

委員 A社はすっきりしていて、学びの道筋がわかりやすく、学んだことが整理しやすいと思います。

会長 報告があったように、A社で決定してよろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 それでは、国語はA社ということにします。続いて書写については、A社ということでございましたが、いかがでしょうか。

委員 国語と同じほうがわかりやすいのかなと思いますので、A社で良いと思います。

委員 手本として大判で見やすいということもありますし、県の入試への対応もありますし、資料編も充実していて後々使いやすいということもありますので、報告と同じでよいと思います。

会長 それでは、報告にあったように書写はA社に決定します。

【社会（地理・歴史・公民・地図）】

会長 続きまして、社会科の地理的分野の報告をお願いします。

代表調査員 はじめにA社です。基礎的・基本的な内容構成であり、分量も適切です。写真・資料も豊富です。一番の特色は、地域全体を見渡し、その後詳しく学習していく構成で、地域の特色をつかみやすくなっていることです。竹島については、特に1ページを割いて詳しく記述されています。市町村合併では雲南市、浜田市が取り上げられています。また、思考力・応用力が身に付けられるような工夫がなされています。全体としては、特に優れた教科書であると考えています。

続いてG社です。基礎的・基本的な内容構成であり、資料も適切です。活字が鮮明で見やすいです。ページごとに学習課題が明記され、振り返りもあり、一時間単位で完結するようになっています。身近な題材を使ったトピックにより、興味・関心を高められるようになっています。

竹島はコラムで取り上げられています。県内では大田市、石見空港が取り上げられています。一番の特色は、「地域に学ぶ」という一貫したテーマでつくられており、良い教科書であると考えます。

続いてK社です。写真・資料がたくさんあり、文面も簡潔にまとめられています。コラムもたくさんあり、わかりやすいものになっています。竹島はコラムで取り上げられています。出雲大社、石見銀山等が比較的大きく取り上げられています。また、單元ごとに学習を振り返ることができるページがあります。また、最大の特色は、写真が大きくて見やすく、他の教科書と比べ抜きん出ています。全体としては、子どもたちがさらに追求できるような記述のある優れた教科書であると考えます。

続いてO社です。内容・分量共に適当ですが、細かい記述もあり、内容的に難しい部分もあります。また、扉のページが見つらい部分もあります。また、学習課題、まとめ、活用と段階的に学習しまとめることができるようになっていきます。この教科書の特徴として、新しい写真が多く入っているということが挙げられます。章末ではまとめの学習や発展的な学習ができるように工夫されています。全体としては、現在の社会情勢を学ぶことができる良い教科書であると考えます。

会長 特に優れているという表記がされているのはA社ですが、これが良いということでしょうか。

代表調査員 はい。

会長 委員の皆さんからご質問があればどうぞ。

委員 各社とも竹島や過疎問題を取り上げていると思いますが、4の観点からすると、一番良いのはどの教科書だと思いますか。また、小学校のつながりでいうと、他社はどうかをお聞きしたいです。

代表調査員 4の観点ですが、竹島を大きく載せているのはA社のみです。ほかの会社と比べ、一歩抜きん出ていると考えます。小学校とのつながりは、A社は小学校での既習事項を踏まえて学習しやすいような配慮がなされており、他社と比べA社が一歩抜きん出ていると考えます。

会長 ほかに質問がないようですので、続いて歴史的分野の報告をお願いします。

代表調査員 まずA社です。AB版で写真・資料が豊富で大きく見やすい構成です。本文にも番号が打ってあり、どの写真を見たらよいかわかるようになっています。50%が近・現代史です。章の初めで小学校の復習ができ、つながりを考えて学習できます。竹島については1ページを使って特集されており、歴史的な観点からも竹島をしっかりと学習することができます。島根の神話も取り上げられています。また、章末にノートのとまとめ方があり、自分にあった学習法が選べるようになっています。全体的には、各時代を概観できるよう配慮された優れた教科書であると考えます。

続いてG社です。AB版で写真・資料が豊富で大きく見やすいです。本文にも番号が打ってあります。55%が近・現代史です。歴史コラムがたくさん取り上げられており、興味深く学習できます。活字がはっきりしています。竹島は、半ページを使っています。出雲神話をコラムで紹介しています。また、ページごとに課題・振り返りが載っていて、表現力が身に付く配慮がなされています。全体として、時代の区切りごとに振り返り・次の時代の予想ができる良

い教科書であると考えます。

続いてI社です。B5版なので、文章は簡潔です。欄外に解説が詳しく載っています。コラムがたくさんあり、興味を引き出す工夫がなされています。竹島は短文ですが記述があります。コラムには出雲神話、神楽が載せられています。また、発展的学習ができるようになっています。全体として、見開き2ページの内側に本文が、外側に資料があり、縦に長く読みやすい教科書であると考えます。

続いてK社です。地理的分野と同じく写真や図版が大きく目を引くようなものが選ばれています。55%が近・現代史です。大きな特色として、全章の初めに各時代の様子をつかみやすい想像図があり、時代の全体のイメージがつかみやすくなっています。竹島も領土問題として北方領土などとともに特集されています。見開き2ページごとに重要語句を用いて自分の言葉で説明する学習が設けられており、言語活動にも配慮されています。全体として、各時代を大きく概観する構成となっており、たいへん優れた教科書であると考えます。

続いてO社です。章の初めには世界史との関連を図りながら学習できるようになっています。竹島や石見銀山はコラムで取り扱っています。見開き2ページごとに学習課題が設けられており、自主的な学習に取り組めるような工夫がなされています。また、歴史上の人物だけでなく、様々な分野における先人の働きを取り上げています。全体としては、絵画資料等から歴史を紐解く経験ができるようになっており、基礎・基本を身につけることができる読みやすい教科書であると考えます。

続いてQ社です。古代に多くの量を割き、日本の伝統文化に関するコラムがたくさん掲載されています。また、唯一南京虐殺事件に関する記述がないという特色があります。竹島は特設ページはありませんが、記述はあります。出雲神話は、特設ページで詳しく載せています。大きな特色として、神話がコラムではなく、本文で取り上げられています。また、日本人の素晴らしさ・よさがたくさん書いてあります。全体として、日本古来の文化と近代以降の独立維持について考えることができるように工夫された教科書であると考えます。

続いて、R社です。AB版で、写真や資料も大きく見やすい構成です。コラムの特色として、あまり取り上げられない人物が多く取り上げられています。竹島については特設ページはありませんが、記述しています。また、日本の成り立ち、宗教観・神話について詳しく扱っています。全体的な特色として、歴史上の人物が数多く取り上げられています。見開き2ページを1タイトルで構成している教科書であると考えます。

続いてS社です。A版の特色を生かし、写真も大きくなっています。第二次世界大戦の記述が多くなっています。小単元のタイトルが目を引きくようなものになっているのが特色です。竹島は欄外で取り扱っています。文章を民衆の目から見た記述が大変多くなっており、民衆史について考えられるような工夫がなされています。全体として、日本の歴史と世界の動きを関連づけて学ぶことができるよう工夫された教科書であると考えます。

会長 委員の皆さんからご質問があればよろしくお願ひします。

委員 4点お願ひします。1点目は、竹島問題に絞った場合、島根県にとってどの教科書が一番高く評価できるのか。2点目は、同和問題の記述で充実している教科書はどれか。3点目は赤紙について取り扱っている教科書があったがこの評価はどうか。4点目は、現代語版だけで時代の雰囲気を感じることができるか疑問を持った。以上4点について、お尋ねします。

代表調査員 竹島について詳しく書かれているのは、A社です。歴史的分野では歴史的背景が書かれているので、竹島に限って言えば、A社が優れていると思います。同和問題については、どれが特に優れているという意見はありません。赤紙については、一つの資料として載せてい

るのだと思います。現代語版については、1社だけでしたが、おっしゃるとおりだと思います。

委員 戦争については、各教科書によって書きぶりが違うと思いますが、公平・中立な記述をして考えることができるような教科書はどれでしょうか。

代表調査員 これだけは秀でていないものはないと思います。

委員 A社はICT活用が有効に使えていると思いますが、他社にはそのようなことがないのか。効果的な資料にDのマークがつけられていると書いてありますが、Dとは何のことか。教えてください。

代表調査員 デジタルという意味で、デジタル教科書に対応できるようになっています。ほかは特にそのようなものは見当たりませんでした。

委員 近・現代の割合は何か基準がありますか。

代表調査員 特に基準はありませんが、学習指導要領には、近・現代史を重視するとなつていすので、これくらいの割合になっていますということを示しました。

委員 たとえば、50%を超えていけばいいとかという意味合いで載せていますか。

代表調査員 いいえ。そういうわけではありません。

委員 逆に、近・現代の割合が小さいということについては、どう考えますか。

代表調査員 どの教科書もある程度の割合であったので、極端な違いはありません。

委員 公平性・中立性というものも報告書を作るにあたって考慮していますか。

代表調査員 はい。

委員 一番望ましいのではないかというのは、K社ですね。

代表調査員 はい。そう考えています。

委員 A社とK社では、ほとんど遜色ないと思っていますが、どうでしょうか。

代表調査員 他の調査員もA社とK社で迷っていました。現在、K社の教科書を使っていますが、A社に替える決定的な理由があるかと言えばそこまでのものはないということで、判断したところです。ただ、写真や図表が大変見やすいですし、「タイムトラベル」のように配慮のある資料があり、最終的な決め手になりました。

委員 教育委員の中でもいろいろ意見が分かれていましたが、一番のポイントは歴史の見方で、相対的にものごとを見る目を養うことができるものがポイントだという意見がありました。その観点からみると、A社とK社ではどうでしょうか。

代表調査員 それはわからないですね。

会長 よろしいでしょうか。それでは続きまして、公民的分野の報告をお願いします。

代表調査員 まずはA社です。資料・写真が豊富で、基礎・基本もおさえられています。また、見開き2ページに学習課題からまとめまで構造的に示してあり、多面的に考えられるようになっています。また、各章の初めに身近なテーマが取り上げられており、興味を持って学習できるようになっています。竹島問題は、地・歴・公にわたって特集されています。公民にチャレンジというコーナーが設けてあり、個人やグループで学習内容を深めていくことができます。最終章ではレポート作成により、公民全体のまとめができるようになっています。全体としては、学習課題、豊富な資料、本文や注釈がわかりやすく、発展的な課題や社会参画を促すよう構成された特に優れた教科書であると考えます。

続いてG社です。資料が豊富に載せられています。注釈が細かくついていて、わかりやすくなっています。各章の導入部では中学生の姿が取り上げられており、興味関心を高めていくことができます。また、コラムがちりばめられており、興味・関心が広がるようになっています。竹島については、特設ページはないですが、現代社会のところで記述があります。ディベート、プレゼンテーション、ポスターセッションなどの仕方が紹介されており、思考・判断・表現力が身につくようになっています。全体的には、知識の定着や課題解決のための資料、振り返りまでの構造化がされており、良い教科書であると考えます。

続いてI社です。本文と側注が色分けされていて見やすく、用語も詳しく解説されているのが特色です。見開きで学習課題とまとめについてわかるようになっています。竹島については本文中には記述がありませんが、コラムで紹介されています。最終章で発展的な学習ができるようになっています。全体としては、資料や解説の紙面がコンパクトにおさめられています。それに伴いフォントも小さくなっています。また、地・歴・公の関連に配慮されている教科書であると考えます。

続いて、K社です。写真や資料が非常に多くわかりやすい内容です。資料と本文の配置が一定で、見やすい紙面となっています。難しい用語については、解説・イラストでわかりやすいものになっています。本文の文中には写真・資料番号だけでなく、憲法何条かなども書いてあり、わかりやすくなっています。竹島については、本文中に記載されています。また、「対立と合意」「効率と公正」等の関連を示し、作業を通して基礎的な技能を身に付けられるようになっています。全体としては、学習の流れがよくわかり、また最終章で、レポートづくりに向けての視点が示されており、学習が進めやすい配慮がなされた教科書であると考えます。

続いてO社です。本文も簡潔で、社会事象を整理して捉えられるように配慮されています。1単位時間のページには、学習の課題が示され、追究の中心資料、学習目標が示される構成となっています。竹島については、本文に載っています。最終章ではレポート作成が取り上げられており、持続可能な社会の実現に向けての課題設定・まとめができるようになっています。全体としては、学習課題や資料、学習の確認と活用により、学習内容が整理しやすい構成となっている優れた教科書であると考えます。

続いてQ社です。写真や資料が精選されており、シンプルですっきりした感じの教科書です。また、学習に関連した内容を資料をもとに解説することで、興味・関心を高める工夫がなされています。竹島については、2ページで領土問題全体について扱っている中で半ページを竹島に割いています。章末の学習のまとめで発展的な学習ができるようになっています。全体として、学習課題・資料・まとめのポイントが整理しやすい教科書となっていると考えます。

続いてR社です。図が豊富に掲載されています。内容が詳しく記述されているのが特色です。

1 単位時間のページは、学習課題が示され、最後にまとめができるような構成となっています。各章の初めに、イラストで身近な問題を取り入れて、学習に入りやすい工夫がなされています。竹島については、北方領土と合わせて1 ページに載せられています。まとめもレポート作成ができるようになっています。全体として、内容を理解させるだけでなく、さらに深化させるために説明や調べるなどの課題を設定するなど、工夫された教科書であると考えます。

会長 ご質問がありましたら、お願いします。

委員 3点お願いします。まず1点目ですが、A社の観点に「地・歴と関連付けられるようにマークで示してある」とあるが、他の会社は関連付けられているのか。2点目は、K社に18歳以上の参政権についてありましたが、政治教育の観点から高校教育へのつながりからみたときに全社はどうなのか。3点目は国旗・国歌について、分量が違いますが、どういう観点で評価されたのか。お聞きしたいと思います。

代表調査員 A社について、地・歴との関連は自社の教科書でどのページにあるかわかるようになっていました。この会社の大きな特色で、ほかにはありません。次に高校との接続ですが、参政権についてはK社だけで、他の会社も何かしらのことをするのではないかと思います。国旗・国歌について分量の違いはありましたが、特に問題・課題はありませんでした。

委員 歴史の教科書と公民の教科書は教科書会社が違っていても影響はありませんか。

代表調査員 特にないと思います。

委員 地理と歴史分野が関連付けて考えられるようにマークがあるということでしたが、マークは歴史のA社と比べると見やすいということですか。

代表調査員 すべてA社を使っていれば、関連付けて見やすいということです。

委員 違う教科書を使ったら意味がないですね。開こうと思っても開けないわけですよね。

代表調査員 関連しているのはどこか、ということは勉強していれば大体わかると思います。

委員 この資料を見ると、公民はA社が一番良いということですね。

代表調査員 はい。

委員 中立性・公平性という観点では、特に問題を感じた教科書はなかったですか。

代表調査員 特に感じませんでした。

会長 続いて地図の報告をお願いします。

代表調査員 まずはA社です。資料がたくさん載っているという特色があります。また、歴史的分野、公民的分野と関連した資料がたくさん載っています。たとえば京都の文化財など、他の分野でも使いやすい地図帳です。また、日本全体・世界全体の資料が質・量ともに充実してい

ます。資料索引もあり、調べられるようになっていきます。竹島は、中国地方のところで5万分の1で表されており、地形も分かるようになっていくのが特色です。基本資料が自社の教科書と対応しており、使いやすくなっています。全体として資料がたくさん載っており、資料集としても十分活用できます。教科書や他の資料と関連付けて読み取ることのできる優れた教科書であると考えます。

続いてK社です。いろいろな資料が掲載されていて、地域の特色がとらえやすくなっています。また、この教科書も歴史的分野、公民的分野と関連した資料がたくさん載っています。また、最初のところで、地図帳の見方もわかりやすく書かれています。この地図の大きな特色として、「鳥瞰図」があり、地域の特色をつかむことができるようになっていきます。竹島については大きな縮尺のものはありませんが、日本全体の中での位置がわかるようになっていきます。全体としては、地図自体が色合い等見やすく、主体的に学ぶことができるように工夫された特に優れた教科書であると考えます。地図としての価値が高いと考えます。

会長 この報告について、ご質問はありませんか。

委員 前回の中学校の地図を決める時、小学校の地図と同じ会社のほうが移行しやすいというプレゼンがありましたが、そういうことは今回はなかったですか。

代表調査員 小学校のことについては、今回は視野に入れていません。

委員 竹島について、韓国と日本の位置関係がわかりやすいという観点で、前回決めたということもありましたが、わかりやすいのはどちらでしょうか。

代表調査員 位置関係を見るなら、A社のほうがわかりやすいと思います。地形という点ではK社がわかりやすいです。

委員 K社が地図としてわかりやすいということでしたが、長年見慣れているからということではないですか。

代表調査員 確かななじんでいるということは否認しません。教える側として使いやすいということも大切だと思います。

委員 使いやすいということも大切なことだと思います。

会長 以上で社会科の報告を終了します。

(代表調査員退席)

会長 次に社会科の教科書の採択に移りたいと思います。最初に地理的分野ということで、報告ではA社が優れているということで、理由としては、竹島が大きく取り上げられていることとか、小学校とのつながりが最も配慮されているということなどの説明がありましたが、ご意見を伺います。

委員 A社は、思考・判断・表現力の育成が期待できるということが書いてあるので、報告にもあったように優れた教科書であるという印象を受けました。

委員 私もA社が良いと思います。

会長 全体としてはA社が良いという受け止めのようですので、A社ということで決めさせていただきます。続きまして、歴史的な分野です。報告では、総合的に見てK社が優れているということでしたが、ご意見がありましたら、お願いします。

委員 私はA社が良いと思いました。理由は、竹島を大きく取り上げ、同和問題の記載も充実していることと、歴史上の人物も豊富に取り上げていて、選択もよいということが挙げられます。第二次世界大戦の写真の選択も、当時の時代背景がよくわかるということで、A社が良いと思います。

委員 第二次世界大戦で詳細に記述されていて、A社が良いと思います。

委員 本文と同じ番号、という表現がありますが、子どもたちにとって自分で学習するうえですっと見やすいということも考慮すると、同じ会社のものを使ったほうが効率的かなと感じています。甲乙つけがたいならA社が良いと思います。

委員 教える方の立場でK社がよいと思われたと思いますが、子どもたちにとってわかりやすくなっているのが大切だと思います。関連性があることを考えると、同じ会社のほうが良いのではと思います。

委員 竹島問題が一番詳しく載っているのがA社なので、それも大きな理由になると思います。

委員 多面的に見ていかないといけないと思います。ICT活用が効果的な資料には「D」のマークがついていますが、それを教科書会社が無償で提供するならそれでいいですが、予算的に厳しい自治体はそのマークがついていても、意味がないと思います。仮に無償で提供されても改訂版以降は有償になるのではないかと心配もあります。

委員 資料にはK社に「たいへん優れた教科書である」と書かれているので、それを覆すとなると、絶対的な理由をわれわれも作れるかという問題があります。

委員 甲乙つけがたいですが、どちらかを選べと言われれば、A社が良いと思います。構成・読みやすさがありますが、特徴となる時代の資料の取り上げ方が公平なものであるので、A社が良いと思いました。

委員 しっかりと時間をかけて作られた資料は重みがあるものですので、ここですぐにKではなくA、と言うのは難しいと思います。

会長 なかなか結論が出ないようであれば、調査員と話をし、協議会での意見を踏まえてもう一度追加の調査研究していただく時間を取っては、と思います。そしてこの2社で比較検討を行っていただけたいと思いますがどうでしょうか。

委員 その際には、明確な違いや理由を示していただかないといけないと思います。我々の意見を踏まえて明確な違いを説明してもらいたいと思います。

委員 われわれの納得できるような説明をしていただきたいと思います。

委員 先ほどの説明では、それほど差がないという感じだったので、違いについて明確にしてほしいと思います。

会長 それでは、もう一度、2つに絞ってより詳しい比較をしていただけたらと思います。歴史については、もう一度報告を受けたいと思います。

続いて公民的分野です。報告では、A社が良いということでした。ご意見がありましたらお願いします。

委員 地理的分野との関連性も考えて、私はA社が良いと思います。

委員 A社が良いと思います。

会長 A社が良いという意見が多いですので、公民的分野はA社に決定します。続いて地図です。K社が良いということでしたが、どうでしょうか。

委員 見やすいのはA社だと思います。子どもが見て見やすいほうが良いと思います。

委員 小学校からの連続性では、A社だと思います。

委員 鳥瞰図について強調されていましたが、子どもたちが主体的に学んでいくというのは重要な視点ではないかと思しますので、K社が良いと思います。

委員 生徒が主体的に学ぶということを評価されたのは大きいと思います。

委員 A社は資料として充実していて、K社は学び方を育てるのがポイントになっていると思います。その観点から考えるとK社が良いと思います。

会長 課題を見つけて主体的に学ぶことができることや、鳥瞰図が先生方の間では評判が良いことなどから、K社の地図帳が使われています。これらのことから総合的に判断してK社の地図帳ということでよろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 地図はK社ということで決定したいと思います。

[数学]

会長 続いて数学の報告をお願いします。

代表調査員 初めにA社です。細かくスモールステップで学習できるように配慮されています。また、連続的変化をパラパラ漫画で見られるようになっていきます。また、典型的な誤答例が示され、正しい解答例を自分で確認できるようになっています。小学校の復習ができるように巻末が工夫されています。総括としては、3年間の学習のつながりや系統性を示しており、学習者が使いやすい教科書であると考えます。

続いてB社です。学習のめあてが最初に細かく示されていて、目的意識をもって学習できるようになっています。各章の最後にコラムが設けられていて、社会の仕組みと数学のつながりが載っています。また、練習問題の横にさらに練習問題が載っていて、自主学習を促す工夫がされています。総括としては、数学の有用性を大切にしたい良い教科書であると考えます。

続いてE社です。各節の終わりで、2人のキャラクターの会話で、その節の振り返りと次の節につなげられるような配慮がされています。また、巻頭で数学で使われる類推・帰納・演繹について取り上げ、数学的な見方・考え方を紹介しています。また、各領域の前に振り返りを設け、前学年までの学習を復習・確認できるようになっています。総括としては、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている良い教科書であると考えます。

続いてG社です。巻末に数学で大切な考え方である類推・帰納・演繹を具体的な問題を通して理解できるようになっています。各章の最後の練習問題で4つの観点で自己評価できるよう配慮されています。学習のまとめでは、書き込みながら確認できるよう工夫されています。総括としては、自らの考えで学習に取り組むことができるように配慮された良い教科書であると考えます。

続いてM社です。全学年に予習課題・活用問題として使うことができる別冊がついています。また、関連する既習事項を振り返りとして掲載されていて、繰り返し学びなおしができるよう工夫されています。また、数学的な見方・考え方がわかりやすく各学年の最初に示されています。また、話し合ったり伝え合ったりして学ぶことにより思考力・判断力・表現力が高まる工夫がされています。章末では各自で復習できるよう配慮されています。総括としては、表現力の育成と協働的な学びになるよう配慮されている優れた教科書であると考えます。

続いてN社です。「ふりかえり」で復習できるように配慮されています。巻頭で、前学年で学んだことを復習・確認して学習できるような構成になっています。また、説明することや判断することの機会を増やすような工夫がなされています。章末に難易度を考慮した問題が豊富に掲載されており、習熟度に応じた学習ができるようになっています。総括としては、シンプルな流れで学習内容が整理されており、理解を促す配慮がなされている良い教科書であると考えます。

続いてO社です。見開き2ページを一つの節として構成し、流れが確認しやすくなっています。また、すべての章の直前に既習事項を復習できるページがあります。また、巻末のB問題で、思考力・判断力・表現力が培われるような配慮がされています。総括として、巻末に学習の手助けとなるようなことが具体的に表記されている良い教科書であると考えます。

会長 優れた教科書である、というのがA社とM社と二つありますが、違いはありますか。

代表調査員 二つが7社の中ではよいだろうということになりましたが、この二つは甲乙つけがたいという考えです。

委員 両方同じという判断をされたということですか。

代表調査員 はい。

委員 思考力・判断力・表現力を高めるアクティブラーニングの視点から見ると、特にどこが一番良いのでしょうか。

代表調査員 やはりA社とM社です。

委員 小学校ではM社からA社に替わりましたが、替わって良かったという評価があるのでしょうか。

代表調査員 1年もたたないのに、評価はわからないと思います。

委員 小学校と中学校の教科書の接続は配慮すべきことでしょうか。

代表調査員 特に小学校からの系統性はありませので、つなぎということを考えなくてもよいと思います。教科書が違っていても問題はないと思います。

委員 家庭学習や基礎学力の定着という点で、「別冊」というのはよく考えられていると思いますが、M社の評価はどうかということが一点。それから、3年生での振り返りということがありましたが、A社とM社を比較してどうかということと、文字・図・色のバランスという観点からA社とM社の違いはどうかということをお教えください。

代表調査員 別冊については、M社の特色だと思います。別冊を教科書の横に並べながら使うことにより、比べながら学習できます。それと、振り返りの部分は、どの場面で振り返りをするのが重要ですが、どちらもいろいろな場面で振り返りができるようになっているので、大差はありません。文字や図の色のバランスは、特に違いはないと思います。

委員 管内の子どもたちにとってより良いもの、という観点からもA社とM社では違いはないということですか。

代表調査員 特に違いはないと思います。

委員 県のレベルはそれでいいかもしれませんが、採択地区のことを考えたとき、より良いものといえば、どちらになるか示してほしいです。

代表調査員 調査員で話をしても、なかなか結論は出せませんでした。

委員 アクティブラーニングの観点からA社とM社を比べたとき、わかりやすいのはどちらですか。

代表調査員 M社のほうが話し合ってみようとか自分の言葉で伝えてみようとか、わかりやすく書いてありますので、M社が使いやすいと思います。

委員 A社はスモールステップで着実に身に付けていき、M社は発展学習についても配慮されているような書きぶりですが、出雲管内の子どもたちにとって何が今必要なのか教えてください。

代表調査員 A社のほうがより細かいステップになっています。ただ、別冊を設けることで、M社は発展的な学習ができるように配慮されています。

委員 M社については、説明が丁寧であること、学習のステップが細かいこと、考えさせることが先行しているということをおっしゃいましたが、どうでしょうか。

代表調査員 細かいステップは両者違いはないと思いますが、考えさせるということでは、M社が各場面場面で設けているので、その点では違いがあります。

委員 あまり違いがないと言われましたが、M社は色がすっきりとしていて落ち着いた感じ。A社はカラフルで興味を引きやすいという印象を受けましたが、これらは子どもたちにとってあまり関係ないことですか。

代表調査員 数学が苦手な子にとっては、まとめ方でしっかり色付けしてあることは大切なことであると思います。M社は大切なところが色付けしてあって、わかりやすいです。

委員 A社は頭の整理がしやすいレイアウトになっていると思います。子どもにとっては見る気になると思います。

委員 M社が仮にA社になった場合、教える側の混乱、生徒にとって教科書が代わることの混乱はありませんか。

代表調査員 問題はないと思います。学習内容が大きく変わるわけではないので、子どもたちが混乱することはないと思います。

会長 以上で数学の報告を終わります。

(代表調査員退席)

会長 いずれも甲乙つけがたいということでしたが、どうでしょうか。

委員 印象ではA社のほうが見やすかったです。

委員 私は逆にM社が良かったです。確かめもできやすく、わかりやすく親切な解説があるなと感じました。どちらも教える側が良いと言われれば、どちらでも良いです。

委員 考えさせるという点で、説明が丁寧であるということでM社が良かったです。今、うちの市では家庭学習が大きな課題なので、家庭学習をしっかりさせるうえで、別冊は特色があるなと思いました。小学校との関連がないので、M社が良いのかなと思いました。

委員 私も別冊というのが良いと思います。うちの町に限って言えば、そうそう塾があるわけではない、書店に参考書がたくさんあるわけではない。そういう環境を考えると、学習が進めやすいかなと思いました。甲乙つけがたいということでしたが、どちらかと言えばM社が良いと思いました。

会長 今までのところでは、M社という意見が多いですし、アクティブラーニングの観点、管内の子どもたちの状況としてB問題・活用力に課題があるというのは共通していることですし、今ご意見があったように、M社ということによろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 それでは、数学はM社に決定します。

[理科]

会長 続きまして、理科の報告をお願いします。

代表調査員 初めにA社です。興味・関心への配慮ですが、写真が多く、目にすることがないようなものも使われています。実験の中で、1学年に1つずつ、思考力・表現力を高めようとする問題解決的な学習を教科書の中で示してあるのが良いと思います。島根県の奥出雲町のたたら製鉄が写真入りで取り上げられています。全体として、非常に丁寧に作られている教科書であると考えます。

続いてB社です。本文、写真、イラストがバランスよく配置されていて、読みやすい教科書であると思います。また、単元の最初にこれまで学習してきたこととこれからの学習が示してあり、見通しをもって学習ができるように工夫されています。また、発展的な学習が詳しく紹介されており、興味・関心を高めるうえで効果的だと思います。

続いてE社です。教科書の特徴として、科学の基礎的な現象から入って身近な現象を説明するような流れになっています。また、発展的な学習内容が豊富にあると思います。また、科学を仕事に生かすというところは、学習内容と職業の関連を示していて、キャリア教育的にも優れた教科書であると考えます。

続いて、G社です。写真・図が多く、わかりやすく示してあります。この教科書の特色として、表を効果的に使っていて、その単元の学習内容のまとめ方がうまくできています。また、実生活と関連する内容が盛り込まれています。また、実験・観察のページで、何のための操作かが項目立てて書いてあり、わかりやすいと思いました。グラフの線が色分けしてあって、見やすかったです。

続いてM社です。写真を効果的に提示して興味・関心を高める工夫がなされています。特に水の中の微生物では、大きさを同じスケールで示しているのはここだけで、効果的だと思います。また、物質と物体で説明するところで、8種類のコップを取り上げて、物質と物体の意味を知ることができるようになっています。一般的に実験データを詳しく多く取り上げていることが特徴です。また、別冊が参考書としても使えるのが特徴です。

会長 それでは、委員の皆様。質問がありましたらお願いします。

委員 「教材の選択や構成」において、思考力・判断力・表現力を育てるアクティブラーニング的な対応に対する評価については、A社とE社に書かれています。県の資料を見ますと、M社は分量的には少ないですが、重要なポイントが書かれています。話し合う・活用は、出雲地区ではこのような評価がなされていないのはどうしてか、ということが一点です。

もう一点は、たとえばM社では、県の資料では評価している部分が出雲地区では書いてないですよ。それはなぜなのかをお聞きしたいです。

代表調査員 最初に、話し合い活動等ですが、全般的にどの教科書でも取り上げています。特にA社では、実験の中で「じっくり」という項目を設けて、生徒に実験方法から考えさせる場を作っているのが特徴的だと思います。どの教科書も話し合い活動等を取り入れることは視点として取りあげていると思います。

委員 M社は、特にここを重視しているということでもいいですね。

代表調査員 M社は、話し合い活動を重視していると思います。実験の中で、方法を子どもたちに選ばせるというものがあります。何回か実験を試みることを紹介しているところもあるので、そういう視点はこの教科書にはあると思います。

数学との関連があるかということですが、どの教科書でも理科は数学を基礎として使いますので、その観点はあると思います。今まで小さく書いてあったところが大きくなっているものもあります。

委員 興味・関心のところで、県の資料では身近な部活動と理科と結びつけるところを評価していますが、出雲地区ではなかったのそのような評価はなかったのかなと思いました。

代表調査員 M社だけでなくほかの教科書でも、身近なものを取り上げているものもありました。あえてその教科書だけを取り上げる必要はないのかなと思います。

委員 M社には別冊がついていますが、別冊はあったほうがよいのかななくてもよいのか、どうでしょうか。

代表調査員 教科書との関連という点では使い勝手が良いと思います。

委員 別冊の内容は、A社でいうと、別冊の内容が教科書本体に書かれていると思いますが、どうですか。

代表調査員 書き込み欄もありますし、あえて別冊にしてないと思います。

委員 A社が最も良いのではという結論ですね。

代表調査員 理科の考え方として、身近なものから入って、実験・観察をやって、そこで得られた科学的知識をもう一回身のまわりの現象に当てはめて考える、という流れが良いと考えています。M社も優れていると思いますが、A社がより丁寧に作ってあり、今まで教員が工夫してきたことを教科書が取り入れていると感じます。

委員 A社は身の回りの植物から入っていきませんが、葉の仕組みと働きから入って、わかりやすいと思いましたが、それが今言われたことなのかなと思いました。

代表調査員 はい。A社かM社かで迷いましたが、総じてA社が優れているのではないかと思います。

会長 それでは理科の報告を終わります。

(代表調査員退席)

会長 皆さんの意見を伺って決めたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員 A社が良いと思います。

委員 私もA社が良いと思います。実験・観察をしてレポートにまとめるとか、みんなで話し合

うとか、考えて書くとか、そのような活動が良いなと思いました。

会長 それでは、理科はA社ということで決定させていただきます。

〔音楽（一般・器楽）〕

会長 続いて、音楽の報告をお願いします。

代表調査員 まず「一般」についてです。同じ観点で記述しています。G社は内容・程度・分量等については、創作の学習に取り組みやすいように工夫されていますが、2・3年生の内容については、取り扱う題材が高度であると思います。それに対し、H社では無理なく創作活動に取り組めるように工夫されています。

次に教材の選択や構成等については、G社は学年別の選曲にやや偏りがあると感じました。それに対しH社は、学年にふさわしい、発達段階にふさわしい選曲がなされていると思います。

次に興味・関心への配慮等については、G社は見開きのページで全体をとらえることができます。H社は写真・絵が美しく、臨場感あふれるものになっています。

発展的学習、自学自習の工夫についてですが、H社は、西洋の曲が作曲されたときの日本の歴史の様子が書かれており、時代背景の違いを比較することができます。また、H社は学習マップが付けられています。指導者並びに学習者にとっても歌唱領域と創作領域と鑑賞領域がどのように結びついているか理解できるようになっています。これは今までなかったもので、非常に工夫されていると思いました。

総括としては、G社は、いろいろな教材をいろいろな切り口で取り上げていて、指導者が創意工夫することで、活かせるように配慮されている教科書であると考えます。H社は、教科書全般にわたって学校の実情に即した実践例が豊富に取り上げられており、内容もシンプルで3年間の系統性が明確である点が非常に優れていると考えます。

会長 「一般」の説明をしていただきましたが、ご質問があればお願いします。

委員 H社が良いということですね。

代表調査員 はい。

委員 三つのポイントについて詳しく教えてください。

代表調査員 音楽学習マップですね。歌唱、創作、鑑賞と三領域ありますが、どれとどれが関係しているか、どういうことを学ぶのかがぱっと見てわかるようになっています。これは指導者もそうですが、生徒にとっても全体の学習が見えるというのは、学習内容が理解できて良いと思います。

委員 それが今までなかったということですか。

代表調査員 そうです。

委員 音楽は学力調査に相当するようなものはないですが、出雲管内の子どもたちの音楽の力はどのようにみられますか。それを踏まえて、どのような力をつけていかなければならないと思っておられますか。

代表調査員 出雲地区は音楽が盛んだと言われていますが、基本は授業だと思います。授業の中で音楽が楽しいと思えるとか、もっと学びたいと思うようにすることが大切だと思います。また、合唱コンクールなどみんなで音楽をつくっていくという音楽以外の要素についてもあります。子どもたちが音楽が好きになるようにするためにも教科書は大切ですが、その観点からもH社が優れていると思いました。

委員 H社は楽曲の配置が学びやすいように工夫され、学年にふさわしい選曲がなされていると書いてありますが、発達段階に応じて曲の内容がマッチングしているということでしょうか。
代表調査員 そうです。H社の配置はちょうど良いと思います。例えば「早春賦」という歌はG社では2年生で取り上げていますが、この歌は歌うのが難しいので、2年生で歌うのは難しいと思いました。それに対しH社ではうまく配列していると思いました。

会長 続いて、器楽の報告をお願いします。

代表調査員 器楽は、両者ともよくできていると思います。

まず、内容、程度、分量ですが、G社は「合わせて演奏しよう」に掲載されている楽曲の難易度が高く、授業で取り上げるには高度であると考えます。H社に掲載されている楽曲は旋律線が美しく、音楽的な表現の工夫がしやすいように配慮されています。

教材の選択や構成等については、両者同じであります。興味・関心への配慮等については、H社は写真を有効に使っており、生徒にとっては興味を持ちやすいと思います。また、発展的なところでも、G社は自学する際に使いやすいようになっています。H社は段階的を踏んできちんと演奏できるように構成されています。

その他として、G社は見開き3ページで楽器の紹介などがなされているのが特徴的です。H社は一般と同じように、音楽学習マップが入れているのが特徴です。

総括としては、G社は幅広いジャンルの楽曲が掲載されており、指導者の創意工夫が生かせるように配慮されています。H社は学校現場の実情に即した教材が取り上げられており、内容もシンプルでわかりやすい点が優れていると考えます。

会長 ご質問がありましたらお願いします。

委員 一般と器楽で、教科書の会社が違うと不都合なことがあるというような、関連性はありますか。

代表調査員 必ず一緒でないといけないということはないと思いますが、音楽学習マップはリンクして考えられていますので、学習者にとってはわかりやすいと思います。

委員 音楽が好きになってもらえるような観点からもH社が良いと思われましたか。

代表調査員 はい。生徒が学ぶ段階に沿ってやっていけるように配列されている教科書という点では、やはりH社が良いと思います。

会長 それではこれで音楽の報告を終わります。

(代表調査員退席)

会長 音楽は、関連性があるということで一般と器楽の両方ともH社でよろしいでしょうか。

委員 はい。

会長 それでは、音楽は一般・器楽ともにH社に決定します。

[美術]

会長 続きまして、美術の報告をお願いします。

代表調査員 はじめにD社です。小学校から中学校になって、教科名が図工が美術になるので、その戸惑いがないように、美術とは何かを1年生の最初に説明されているのが特徴です。美術には表現と鑑賞の2領域があり、表現のほうがかなり重視される傾向にありますが、2・3年生では、題材の最初のところで鑑賞資料が大きな図版を使って示してあり、その資料を使って鑑賞の学習をしてから表現に移行して行くことができる紙面構成になっています。また、おもしろい試みとして、日本の美術の学習で見開きのページを和綴じのようにしてあり、どの教科書にもないつくりとなっています。

続いてJ社です。一番大きな特色は1年生の鑑賞のページで、例えば「風神・雷神」を絵画、彫刻、屏風など様々な表現方法で見開きにより紹介しています。これらを鑑賞してから表現につなげていくことができるような魅力ある構成になっています。2・3年生では、版画の学習で、一版多色刷りの制作過程を図解することで、見通しのある制作をすることができるようになってるのが特徴です。これは版画に限らず他の表現でも制作過程が見えるようになっていきます。実物大の図版資料を示すことで、作品が身近なものとしてとらえられるような工夫がなされています。

続いてO社です。特に今回工夫されていると思われる点は、3年上の鑑賞で、和紙に日本の浮世絵2点を原寸大で印刷されているということで、より本物に近い形で教科書で見ることができるのは、優れている点だと思います。この作品は島根県の美術館にもあり、教育現場と美術館の連携も図れると考えています。また、国語と連携した題材も取り上げられています。修学旅行では多くの学校が京都・奈良に行くのですが、仏像の解説も載っているので、修学旅行に役立てることができそうです。このように他教科との連携も配慮された教科書であると考えます。

会長 委員の皆さん。ご質問がありましたらお願いします。

委員 他教科との関連性で、たとえば読書活動や国語とのかかわりなどは、O社にみられる特徴でしょうか。

代表調査員 そうです。G社も道徳とのかかわりがありますが、より明確になっているのはO社だと思います。

委員 具体的には、どこですか。

代表調査員 ページの下のところクローバーの印がついているところに、教科との関連する記述がなされていて、このところはO社が一番きめ細かく書かれています。

委員 3社の中で、管内の子どもたちにとって、どれが一番良いと思われますか。

代表調査員 浮世絵の図版資料が本県で収蔵されているという点と、分冊になっているので、いくつかの資料を比較してみる学習がやりやすいという点から、〇社のほうが良いと思います。

委員 〇社は、前回の改訂の時と大きく変わっていますか。

代表調査員 教科書の大きさが変わり、取り上げている作品がとても美しく見え、大きいのは魅力だと思います。また、関わっている方が美術教育界をリードしている方で、図工から美術と9年間を見通して作っておられるので、内容のあるものになっていると捉えています。

委員 和紙で浮世絵というのも初めてですか。

代表調査員 はい。紙質をそのページだけ変えるというのは今までなかったですし、原寸大であるということで、本物に近いものが教科書にあるということは、たいへん良いことだと捉えています。

会長 それでは、これで美術の報告を終わります。

(代表調査員退席)

会長 美術は現在も〇社を使っていて、〇社のほうが良いという報告でしたが、委員の皆様もこれでよろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 それでは、美術は〇社ということで決定したいと思います。

[保健体育]

会長 続いて、保健体育の報告をお願いします。

代表調査員 調査研究を行う際に、指導者にとって使いやすいということだけでなく、学ぶ子供たちにとって使いやすくわかりやすい教科書、という視点をもってみていきました。4社について検討した結果、特にA社とP社が、授業で使いやすく子どもたちにとって分かりやすいと思います。1時間の授業において子どもたちが見通しを持てるという視点が一つ、小学校からのつながりと高校への接続という系統性の視点が一つ、他教科との関連がふれてあるかという視点が一つ、学習活動の中で思考力・判断力・表現力をつけるための言語活動展開していくことがやりやすいという視点が一つ、普段の生活の中に生かしていくことができるという発展的学習の視点が一つです。その他、原色を避けて過度な刺激を避けた印刷をしているところがあります。グラフ、図においても実践だけでなく点線や破線を使って色覚に障がいのあるお子さんへの配慮がなされています。以上の点でA社とP社が良いと考えます。

もうひとつ、「教科書の使い方」というのが巻頭にあります。学力向上の視点で各教科において各校で「学習の手引き」のようなものを作っておられますが、それと同じようなものが4社とも載っています。特にA社とP社については、子どもたちが見ても若い先生が見ても、授業の構成や流れがわかりやすいつくりになっています。B社とL社については、ちょっと難しいかなと思っています。A社とP社については、授業の流れなどがわかりやすいと思います。

現在中学校で使われている教科書はP社です。P社を変更して他にするとすると、かなりこの部分が良いということと言わないといけないと思いますが、われわれの研究の中では、この二つはどちらも優れていると考えます。

会長 何かご質問があればお願いします。

委員 保健体育の場合、病気のことや健康のことはどの社でもそんなに変わらないと思います。今、子どもたちのスポーツの障がいが多いです。もうひとつ、中学校女子生徒でも運動をやっていない生徒も多いということで、生涯にわたってスポーツ・運動を楽しむという観点からも評価することが大切だと思います。まず、スポーツ障がいですが、どの教科書が一番評価されたかということ。また、生涯スポーツの観点からはどうかということ。もう一つ、スポーツと文化という視点も、2020年にオリンピック・パラリンピックがあるので、スポーツの今後の在り方を考えるうえでも重要であると思いますが、A社なのかP社がその点で良いのか、ということをお聞きしたいです。

代表調査員 スポーツの障がいについては、A社もP社も取り上げられています。

委員 A社よりL社が一番スポーツ障がいのことが取り上げられていると思いますがどうでしょうか。個人的には、L社が非常によくできた教科書だと思います。薄い黄色もつけてあって見やすいですし、スポーツは文化であるという考えが一貫しています。また、女性とスポーツなども載せています。A社にはオリンピック・パラリンピックについて載せられていません。それに対し、L社はきちんと取り上げています。また、スポーツと平和について評価されていないというのはどうしてかと、個人的には感じています。子どもたちが「スポーツは楽しいものだ」と思うようにすることは大切なことだと思います。

委員 私もL社が良いと思います。島根県の若い先生が使うという視点で考えられたのは重要なことだと思います。私たちが見てわかりやすいということと、先生たちが見てわかりやすいというのでは、教えるほうが見やすいほうが、生徒により伝わりやすいという考え方ができると思いますが、若い先生たちが使いやすいということで選ばれたという点では私自身の評価が上がってて気になる部分です。

委員 これからのことを考えると、若手の教員の指導にもっとも使いやすいというのも大事な視点だと思います。

代表調査員 今、出雲市では、応急処置・救急処置の実習は、消防署にお願いして、見たり実際にやってみたりして学習しています。それができない地域では、動画が見られるようにしてあるとよいのですが、A社は子どもがタブレットをかざすと、応急処置他の動画が流れるようになっています。そういう工夫がされているので、若い先生も動画を見せながら指導ができるという利点があります。

委員 L社が良いというのは、教科書の内容・中身であると思います。代表調査員さんが良いというのは、子どもにとって分かりやすいこと、教員にとって使いやすいことが視点になっていると思います。

委員 アクティブラーニング、つまり能動的な学習という観点から見たとき、どの会社が良いの

でしょうか。

代表調査員 アクティブラーニングの視点から言うと、子どもたちの間で教え合う学び合う課題を明確に出しているのがP社です。

委員 P社がアクティブラーニング的に良い教科書ということですね。

代表調査員 はい。

委員 デジタル教材が完備されているとありますが、そういう機能はついていますが、これは市町村が負担して購入すべきものなのか、無償で教科書についてきているものなのか、どちらですか。

代表調査員 A社以外は、ホームページに公開してあるものを示しているのですが、クリックして見ていくものだと思いますが、これは、タブレットは個人または市町の購入で、そのマークのものをかざすと動画が勝手に再生されるようになっていると思います。

委員 若い人たちは、タブレットで動画を撮っています。そういうのを個人的にもっておられる若い先生が、コードを読み取って使っておられるのだと思います。

委員 思考力・判断力・表現力の育成とか、日常に生かしていくということ、色覚への配慮ということで、A社とP社が優れているということですが、L社の内容に関して比較したときに、A社とP社で学習指導要領に書かれていることが授業の中でできるでしょうか。

代表調査員 指導者の能力ですよね。自分たちが受け持っているお子さんの保健に対する関心・態度・意欲を考えて授業を組んでいくので。

会長 全体としてみたとき、A社とP社が内容的・質的に良いという評価でいいですか。

代表調査員 はい。

会長 それに加えて、若手の教員にとっても使いやすいものであるという研究調査の結果であると受け止めてもよろしいでしょうか。

代表調査員 はい。

会長 では、保健体育の報告を終わります。

(代表調査員退席)

会長 決定がなかなか難しいようですので、後で決めたいと思います。

[技術家庭（技術・家庭）]

会長 続いて、技術・家庭科の報告をお願いします。

代表調査員 まずは技術分野です。初めにA社です。横にワイドな版となっていて、図・表・資料が多く記載され、情報量が豊富になっています。見開き2ページに手順などがわかりやすく示されています。キャラクターやパラパラ漫画が入っていて、関心を高めるようになっていきます。また、技術には光の部分と影の部分がありますが、技術の活用についてわかりやすくまとめてあります。巻末には防災手帳付録がついていて、防災・減災に役立てられるようになっていきます。総括としては、作業・手順がわかりやすい構成になっており、技術の学習内容と他教科との関連により学習の広がりが意識されている教科書であると考えます。

続いてC社です。実習の写真が多用されていて、それを見ながら学習することができます。ほかの発行者にはない使用工具もまとめられており、写真と一緒に詳細な説明がされています。本格的なものづくりについても記載されており、興味・関心を高める工夫がなされています。発展的な内容として、2つの技術を融合させたライントレースカーを取り上げているところに特徴があります。総括としては、視覚的に基礎的・基本的事項を確認しやすい構成になっていること、体験からも学習意欲を高める場面構成の工夫がなされていることから、良い教科書であると考えます。

続いてD社です。数多くの実習例が載せられています。1ページの中にコンパクトに題材例がまとめられています。各内容の最終末では、社会・環境との関わり、技術とわたしたちの評価などのページを設けて、評価・活用についても取り上げています。総括としては、写真や図の多用や学習の振り返りが随所に設定されていること、学習の関連をマークで示すことで学習の広がりが意識されていることから、優れた教科書であると考えます。

次に家庭分野の説明をします。初めにA社です。技術分野と同じで、ワイドで情報量が豊富です。構成の特徴として、生徒の発達段階に応じて実際の中学生が学習するように内容構成に工夫がなされています。小学校家庭科との接続を考えて学習の順序を工夫しています。また、技術分野と同じで、食品の調理例や作り方が見開きの大きな写真で載っていて、わかりやすくなっています。幼児とのふれあい体験活動が詳細に記載されていて、子どもの目線でわかりやすくまとめてあります。総括としては、基礎的・基本的内容について大きな写真や図を使ってわかりやすくまとめていること、問題解決的な学習の流れに沿って学習が進められるよう工夫されていることから、優れた教科書であると考えます。

続いてC社です。学習指導要領の順番通りに構成されています。調理実習例については多種多彩な例を載せています。実習例や資料が多く、各項目のはじめのところでクイズ形式で紹介されていて、子どもたちの興味・関心を高めることにつながっています。総括としては、「自立度チェック」や「学習のふりかえり」により興味・関心を高め、基礎・基本の定着ができること、各内容について専門的に詳しい資料や発展的な内容が示されている良い教科書であると考えます。

続いてD社です。学習指導要領の順番通りに構成されています。この教科書もたくさんの調理例が載っています。1ページと付属の部分に写真を使って説明しています。幼児とのふれあい体験活動では、生活の課題と実践についての学習について示し、特に事例を多く取り上げていますが、ふれあい体験に行く前に、流れや一日の過ごし方について示しています。総括としては、基礎的・基本的内容について写真や図を使ってわかりやすくまとめられていること、学習の進め方が図や記述で具体的に示してありわかりやすいことから、優れた教科書であると考えます。

会長 委員の皆さんから、ご質問がありましたらお願いします。

委員 いずれもA社が最も良いということですね。

代表調査員 はい。

委員 技術の説明で、技術の光と影、ということがありましたが、具体的にはどういうことでしょうか。

代表調査員 たとえば、ものづくりの技術がどんどん進むと環境の変化等が出てきて、生活が便利になる一方で自然界の環境破壊が出てくる、というようなことです。そのときどうしたらよいかということですが、例えば埋めると土になるようなプラスチックの素材を将来使うようになるとか、情報通信で言えば、便利な反面、青少年にとって有害なこともあるので、便利なものをどう活用するかを子どもたちに考えさせるということです。

委員 A社ではふれられていて、他社ではふれられていないということですか。

代表調査員 ふれられていないわけではないですが、重みづけが違うということです。学習指導要領では扱うことになっているので、どの教科書でも取り扱っています。

委員 取り上げられている題材のタイムリーさの違いが会社によってありますか。

代表調査員 あります。興味・関心を喚起して学ぶことができるような題材は、A社に多いです。指導者が「これをしたい」という思いが表れているのがD社です。

委員 どちらがより重要だと思われませんか。

代表調査員 学習の主体性・自立性からみると、A社がわかりやすくなっていると思います。

委員 技術にしても家庭にしても、関心をもって学び、生活に生かしていくことが大事だと思いますが、そういう視点が重要でしょうか。

代表調査員 はい。生活の中に課題を見つけて、それをどのように改善していけばより便利に、豊かになるのか、というPDCAサイクルを考えながら学習していく構成の教科書が良いと思います。

会長 これで技術・家庭の報告を終わります。

(代表調査員退席)

会長 技術分野と家庭分野についての報告がありましたが、報告どおりA社ということでよろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 それでは、技術・家庭科は、A社で決定ということにします。

[外国語]

会長 続いて、外国語です。

代表調査員 初めにA社です。総括としては、4技能がバランスよく育成できるように構成・活動が工夫されています。自分の意見・考えを発信できるような内容になっており、特に優れている教科書と考えます。細かい部分で言えば、新出単語や基本文が基礎的・基本的なものに精選され、日本語による解説も適切につけられていて、提示の仕方が工夫されています。また、各ユニットの最初には生徒が見通しを持って学習できるような工夫が、2・3年生の各ユニットの最後には生徒が主体的に学べるような工夫がみられます。また、デジタル教材との関連や辞書の使い方の紹介など、主体的な学びを支援する工夫もみられます。

続いて、D社です。会話を重視した構成になっていて、音読練習のためのチェック欄も設けてあります。また、3年間を見通した「My Project」を設定し、4技能をフルに使い、意見を述べたり話し合ったりする活動ができるように工夫されています。また、各学年に「英語のしくみ」が設定され、解説を読みながら練習問題に取り組むことができます。総括として、豊富な題材が取り上げられており、4技能をバランスよく育成する活動が充実している点が優れています。

続いてE社です。総括としては、日常で使われる会話表現が多く取り上げられており、「聞く」「話す」ことから「書く」活動へつなげていく点が優れています。細かく見ていくと、各章の後に「Project」を設け、自己表現活動を通して目標を達成できるようになっています。ペア・グループでの対話活動の後、話したことを英文で書く活動が随所にみられ、コミュニケーション能力の育成に効果的であると考えます。また、「Check It Out」では、文章構造について視覚的にも分かりやすくまとめられており、自学自習につながるように工夫されています。

続いてF社です。総括としては、本来なら基本文として学習すべき英文が「Let's Talk」の「Talking Point」として扱われており、指導に注意を要することが挙げられます。細かく見ていくと、巻末の付録に英語に関する資料が配列されており、生徒の実態や指導のねらいに応じて活用できるようになっています。また、各章の最初に、生徒が見通しをもって学習できるように学習内容が明記されています。また、2・3年生の「Lesson」「Use」の「Read」には段落番号があり、指導しやすくなっています。

続いてG社です。総括としては、本冊と別冊の2冊で構成され、生徒が繰り返し自主的に復習できるように工夫されています。ただ、別冊については、文字の大きさやレイアウト等工夫を要する点もあります。細かく見ていくと、学年ごとに「Lesson」の「Part」の初めに目標が提示され、巻末の付録の「Can-Do リスト」で目標や課題を確認できるようになっているのが特徴です。また、1年巻末に折り込みでPCキーボードの図を示し、生徒が実際にタイピングして学習できるように工夫されています。

続いてJ社です。総括としては、読み物教材が充実していて、読む力をつけることが期待できると思います。細かく見てみると、生徒にとって身近な話題や外国の生活、平和・福祉、社会問題を扱い、生徒の発達段階に応じた題材が設定されています。読み物教材が充実している分、分量はやや多めになっています。「Go for It!」でも生徒に身近な話題を取り上げ、興味・関心を高める工夫をしています。各学年の「CLIL 英語で学び、考えよう」では、他教科の内容と英語の両方を併せて学び考え、表現できるように工夫されています。

会長 委員の皆様から質問がありましたらお願いします。

委員 私は特にA社とD社に注目して比較してみました。両者とも構成は非常に工夫されていると思います。特に優れている、優れているというところですが、D社の「My Project」は3年間を見通した発展的・系統的に4技能をおさえていて学び合いという今求められていることもできるようになっているのですが、「特に優れている」「優れている」とされた決定打はどこで

しょうか。もう一つは、小学校英語とのつながりは重要だと思うのですが、全社がどういう状況だったのでしょうか。評価欄ではA社だけが書かれています。具体的にはどんな点の評価されたのでしょうか。そしてもう一つは、A社は右ページに基本文・練習が表示され、ねらいの場が左側に表示されていますが、この表示の仕方についてどのように評価されたのか。以上3点についてお聞きします。

代表調査員 まず一つ目の質問ですが、一番は4技能がバランスよく配列されているということです。バランスという面では偏りが無いのがA社であると考えます。それからこれからデジタル教材もポイントになってくると思いますが、一つの試みとして家に持って帰って音声で聞くことができることを盛り込んだことも、評価できることだと思います。また、アクティブラーニングについてはどの会社も意識していると思いますが、系統だててバランスよく活動できるようになっているのはA社で、特に優れていると考えます。次に、小学校とのつながりという点では、中学校で学習する単語・アルファベットを小学校でも学習していることを踏まえ、中学校との橋渡しができるようなことが「ユニット0」に設定されていて、その役割を果たしていると考えます。最後の質問ですが、もう一度教科書を見てみないとわかりません。

委員 今、A社を使っていますが、今回の改訂で同じA社でも印象が変わりましたか。

代表調査員 教科書の幅が広がったということで、以前は中に結構盛り込んであつて書く場所もなかったですが、広がったことで教科書に書く活動が広がっていくと思います。また、空白があることで、生徒も大事なことをメモするなどの主体的な学習もできるなど、広がっていくと思います。

委員 私もすべての教科書を読んでみましたが、各社とも4技能はかなり意識されていると思います。いろいろな活動が盛り込んであり、大きくなってゆったりとした感じがします。全体的に興味・関心を引くようにイラストが使ってあつたりしています。その中でもA社は入りやすく親しみやすく、分量が無理のないもので、自然に身につけていきそうな印象を受けました。一方でD社も注目して見ていましたが、文字数が多くて、硬い感じがしたんですけど、そういう印象は受けられませんでしたか。

代表調査員 そこまで私も思っていないんですけど、必ずA社は書く活動でまとめとしているのが特徴だと思います。どの箇所も話す・聞く活動をした後に書いてまとめているところが印象的でした。

会長 それでは以上で外国語の報告を終わります。

(代表調査員退席)

会長 A社が4技能のバランスが良いとか、デジタル教材への対応もできているとか、アクティブラーニングがかなり意識されている点で良いという報告でしたが、いかがですか。

委員 よろしいです。

会長 それでは、外国語については、A社ということで決定させていただきます。

[特別支援]

会長 最後に、特別支援の報告をお願いします。

代表調査員 知的学級、自閉症・情緒学級の生徒をイメージして調査研究をさせていただきました。

最初に国語です。2冊挙げています。まず「こども学問のすすめ」です。右側が原文、左側が現代語訳で、字がやや大きく見やすい構成になっています。ページ数はありますが、文章を読むのが好きな子どもには読みごたえがあるものだと思います。また、国語だけでなく他の教科等でも使用できる図書であると考えます。もう1冊は、「書きかたがわかるはじめての文章レッスン②手紙・電子メール」です。子どもたちが将来、手紙を書いたりメールを打ったりする機会がありますが、手紙の種類ごとに詳しく実例が紹介されています。左側のページに手紙を書く手順が書いてあり、書きやすくなっています。また、電子メールのおさえておきたいマナーも記載されています。これも国語だけでなく、各教科等を合わせた指導にも活用することができます。

続いて算数、数学です。「時計がわかる本」です。短針・長針・秒針の読み方を段階的に説明しています。また24時間制の使い方がわかりやすく書いてあり、知的学級の子どもにとってはおすすめです。巻末には実際に切り貼りして時計を作ってみることができるので、時計への理解を深めていくことができると思います。

続いて理科です。「楽しく学べる理科の実験・工作」です。最初のところで、実験・工作のレベル・所用時間が詳しく書いてあり、完成品の写真が掲載されているので、見通しを持って実験・工作に取り組むことができると考えます。たくさんの量の実験・工作が載っているので、体験的な学習がやりやすくなると考えます。

続いて家庭科です。「はじめてでもかんたん！日本の料理」です。料理をする際の注意点がわかりやすく書かれています。調理の手順で、指や手の動きが載っているので、道具の使い方をまねして調理できるのではないかと思います。これを見ながら調理できるんだと自信を持って取り組むことができるのではないかと考えます。

続いて音楽です。「和楽器にチャレンジ！1 和太鼓を打ってみよう」です。太鼓が大部分を占めています。和太鼓の基礎となることがイラスト付きでスモールステップで紹介されています。ばちの持ち方、構え方など、イメージがもちやすいように工夫されています。また、日常に使われているリズム打ちからスタートしており、子どもたちにとって取り組みやすいものになると考えます。

続いて図画工作、美術です。「名人のデザイン塾①創る文字デザイン まなぶたのしむ文字デザイン」です。普段身の回りで使われている広告や書き方がわかりやすく紹介されています。また、石や段ボール、発泡スチロールなど身近なものを使ってこんなデザインもできるということを紹介しています。竹筆という身近なものを使っても文字が書けることを紹介しており、子どもたちの興味・関心を高めるものになっています。

続いて保健体育です。「運動能力アップのこつ」です。運動能力の中でも、高く跳ぶ、遠くへジャンプをメインにした図書です。高く跳ぶにあたって、足の動きのポイントが連続写真で紹介されています。高く跳ぶ最初の姿勢の写真や跳び箱の連続写真を使って、わかりやすく紹介しています。また、良い例と悪い例が載っていて、子どもたちは良い例を見ながら学習できるように工夫されています。

最後に、外国語です。「音がとびたす！ドラえもんのはじめてのえいかいわ」です。音声ボタンを押すと、このように音楽が流れます。(実演)音楽が流れると、子どもたちも喜んで歌うのではないかと思います。音声ボタンの絵と絵本の絵がリンクしています。このようなものは、特に知的学級の子どもにとっては必要ではないかと考えます。

会長 委員の皆さん。質問があればお願いします。

委員 特別支援教育では、タブレットの効果は非常に大きいと考えていまして、それが使えるような教材の検討はされたでしょうか。

代表調査員 実は私は、タブレットを使って知的学級の授業をしています。タブレットだけではいけないと考えています。タブレットではできるけど、アナログではできないということもあります。ですから併用しながら、体験活動も取り入れていかないといけないと思います。

委員 今紹介いただいた図書は、どうやって選定されたのでしょうか。どこから紹介があったのでしょうか。

事務局 県が示したもののの中から選んでリストに入れる、というものです。

委員 県はどのようにして決めていますか。

事務局 県のほうでも選定の委員がいて、選定しています。

委員 個人的にこれがいい、ということで選んでないということですね、

事務局 そうです。

委員 これらの図書は追加分ということですが、知的障がいといってもレベルが人それぞれです。県が示したからといって図書を取り入れても、その学校のその子どもに合うかどうかはわかりません。実際には、ふだん子どもたちを見ておられるその学校の先生が選ぶようになれば、その子どもの一番興味・関心を引きやすいものを選ぶことができるのではないかと思います。そういうことは併用しておられますか。

代表調査員 現場では、挙げたものを一つの参考資料として、個に応じた一般図書や資料を授業で使うのがベストだと思います。

会長 これで特別支援教育の報告は終わります。

(代表調査員退席)

会長 特別支援学級で使用する一般図書として追加するということで、今説明されたことでよろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 次に、協議が残っていた保健体育についてです。

調査員はA社、P社を推薦、委員の皆様としてはL社も良いということで、非常に難しい状況です。ご意見を聞かせていただきたいと思います。

委員 スポーツ障がい、オリンピック・パラリンピックはタイムリーなことで中身としても大事だと思いますが、その観点から見てA社、P社と言われたと思いますが、このことは共通理解しておかないといけないと思います。

委員 スポーツ障がいは重要な視点だと思います。それを見てないというのは気になります。

委員 見比べてみると、率直にA社が見やすいと思いますが、若い先生が増えたとき、ベテランの先生が選ばれたものに気持ちが傾く部分もあります。スポーツ障がいやオリンピック・パラリンピックのことも重要な部分なので、調査員が選ばれた教科書の中にそれが入っていないということで、ますます難しくなりましたね。

委員 これらの教科書は、全部教科書検定を通過していて、学習指導要領に盛り込まれていることはすべて入っているということですよ。スポーツ障がい、オリンピック・パラリンピックについてですが、これが足りないとかボリュームが少ないとかになると、中身の話になってきますよね。その調整がつかのかつかないのかということになります。

会長 今日のこの場の雰囲気を決めるのは、なかなか難しいですね。

委員 具体的にこうだからこの教科書が良い、というものが一つでもあればそれですっきり決まると思います。それをはっきりと伝えてほしいです。たとえば、県の課題である体力向上については、L社にきちんと書いてあります。このようなことを説明してもらおうと思います。

委員 スポーツ障がい、オリンピック・パラリンピックなどについてもう一度、すべての教科書について調べてもらえば、われわれも判断しやすいと思います。

会長 調査員には、本日の審議の結果を踏まえて、もう一度全体を精査して再度報告してもらいたいと思います。社会科の歴史的分野もありますので、保健体育も含め、委員の皆様にもお忙しいところ申し訳ありませんが、次回もう一度話し合いの場を持ちたいと思います。その他の教科については今日決定をいただきましたので、そのように整理させていただきたいと思います。

会長 次回は、8月4日、午後1時30分から開催したいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、以上をもちまして、第2回教科用図書採択協議会を終了します。ありがとうございました。